

異常高温に対応するため 飽水管理を徹底してください

令和5年8月4日
新潟県農林水産部

- ◎ 今後2週間程度、最高気温が35℃以上の猛暑日が続く見込みで、ほ場が乾きやすい状況となっています。
- ◎ コシヒカリでは、これから高温に対する感受性が最も高い時期（出穂後10～13日）を迎えます。
- ◎ 異常高温による被害を軽減するため、土壌を湿った状態に保つ飽水管理※を継続し、地温の上昇を抑え、根の活力維持に努めましょう。
- ◎ 限りある用水を有効利用するため、節水に努めましょう。

※ 飽水管理：水尻を止水して自然減水し、溝や足跡に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水する、を繰り返す

〔気象状況と今後の見込み〕

- ◎ 梅雨明け以降、気温はかなり高く、降水量はかなり少なくなっています。
- ◎ 今後2週間程度、最高気温が35℃以上の猛暑日が続く見込みで、ほ場が乾きやすい状況となっています。
- ◎ 台風6号の進路によっては、フェーンによる高温・乾燥が発生する可能性があり、まとまった降水がしばらく期待できない状況も想定されます。

〔当面の管理対策〕

- ◎ 現在、早生は登熟初中期、コシヒカリは出穂期から穂揃期、新之助は間もなく出穂が始まる時期となっており、最も水を必要とします。
- ◎ 登熟期間に高温が続くと、白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。異常高温による被害を軽減するためには、ほ場の水温上昇を抑える水管理を徹底することが重要です。
- ◎ 土壌が湿った状態を保つ飽水管理を継続し、地温の上昇を抑え、根の活力維持に努めましょう。
- ◎ 限りある用水を有効に利用するため、かけ流し等を行わず、節水に努めて、地域全体に水が行き渡るようにしましょう。
- ◎ 飽水管理は出穂期25日後まで継続し、用水が確保されている地域では出穂期30日後まで延長し、暗渠栓の開栓を遅くして土壌水分の保持に努めましょう。

熱中症に注意しましょう

厳しい暑さが続きますので、こまめに水分・塩分補給を行い、休憩時間を十分に確保して、熱中症予防に努めてください。